

狩野創大

僕と能

杉並区立馬橋小学校 六年 狩野 創大

ぼくは将来、喜多流の能楽師になりたい。道成寺の乱拍子や、石橋の獅子の激しい動き。鞍馬天狗のシテのどっしりとした動き。そんな素晴らしい芸能を、ぼくも後世に残していきたい。そう考え始めたのは、2年生の終わりの頃だった。ぼくは5才頃から狂言を習っていたのだが、ふとしたきっかけで塩津哲生先生の能「頼政」を見たのだが、そのときの感動は今だに忘れられない。そして塩津哲生先生の所に弟子入りし、これまでに20曲を習い、二回舞台に出してもらえた。そしていつのまにか、「能楽師」になりたいと思うようになっていた。

将来の夢についてライフプランを書こうとしたのだが、ぼくは能楽師になるためのことを、くわしく知らなかった。そこで、能楽師になるにはどうすればよいのかを自分なりに考えたり、インターネットや本で調べてみた。しかし調べてみ

ると、多くの本やサイトに、「家元の人でなければ大変」というようなことが書かれていた。ぼくは家元の子ではない。どうすればよいのか調べてみると、「内弟子」になるということだった。「内弟子」というのは、昔の丁稚奉公のようなもので、先生の家に住み込みで稽古を受けることで、家事の一切をやらねばならず、本当に辛いものなのだ。そして、十年近い「内弟子」が終わってやっと一人前になれる。けれども、ぼくはそれでも能楽師になりたいと思った。又、能楽師になるためには「技能」だけではなく、「チームワーク」が必要だという事もわかった。「能」は、一人ではできない、シテの他にも、ワキ、囃子、地謡など、多くの人がいるからこそ成り立っているのだ。それらと協力しなければ、面白い能を作ることはいずれも出来ず、そのために「チームワーク」は必要だと思う。

ここまで書いたライフプランを読んでみると、沢山のお金が必要だとわかった。月謝、入学費、授業料などだ。それらのお金は、家族が毎日毎日働いて、かせいでいるお金だ。現在も未来も、そのお金を使ってぼくは生きているのだし、そのお金を使ってぼくは夢をかなえる。だからぼくが大人になったら、支えてきてくれた家族をぼくが支えなければいけない。ぼくは「能楽師」になりたい。そして、世界中に能を広めたい。未来のぼくは、今のぼくが作る。夢を現実にするために、ぼくはがんばりたい。

のライフプラン

将来なにになりたいか？ 喜多流能楽師
 その理由：世界に「能」を発信することで、多くの人が「能」の良さや奥深さを知り、「能」を好きになってもらいたから。

夢をかなえるまでのスケジュール

西暦(年)	年齢(学年)	夢をかなえるために努力すること	努力するために、なににお金がかかりそうか
2021年	小学6年	喜多流能楽師に師事する。	月謝
2022年	中学1年	中学校を受験する。	入学費
2023年	2年		
2024年	3年		
2025年	高校1年	喜多流能楽師の内弟子になる。	
2026年	2年		
2027年	3年		
2028年	大学1年	東京芸術大学音楽学部邦楽科能楽専攻に入学する。	
2029年	2年		↓
2030年	20才		
2031年	21才		
2032年	22才		
2033年	23才		↓
2034年	24才	内弟子としての修行を終えて、独立する。	
2035年	25才	能楽協会正会員になる。	入会金・会費
2036年	26才	道成寺を抜く。	↓
2050年	40才	日本能楽協会に推荐され、重要無形文化財保持者指定を受ける。	↓

※最後の行は、荷籠の時にどうなっていたいか、自分で好きな年を入れてみましょう！